

隠翅虫と花粉症にご注意

隠翅虫

〔英名：Oxytelus batiuculus、和名：鳶色背条隠翅虫（トビイロセスジ ハネカクシ）〕



非常に毒素をもった虫であり、刺したり噛んだりはしませんが、潰すと皮膚がただれたりする可能性があります。

【生態】

- ・体長0.6～0.8 cm、頭と羽と腹尾が黒色、前胸、腹部、足がオレンジ色で、大きなアリに似ている。
- ・主に湿った場所（例：淡水湖のほとりや溝、雑木林など）に生息しており、日中は雑草や石の下に潜み、夜間に活動。夏と秋によく見られる。
- ・動きが速く、飛ぶのが上手。蛍光灯などの周りを飛ぶことを好み、明らかな向光性を持っている。
- ・人を噛むことはなく、体液が強酸性で「飛行する硫酸液」とも呼ばれている。そのため、体液が皮膚に触れることで接触性皮膚炎を起こし、症状を引き起こすことがある。軽いものでは紅斑が現れ、悪化すると水疱、疱なども起こり得る。

【駆除方法と解決策】

- ・見つけた時は、手で叩いたり擦ったりせず、軽く吹き落とすか振り落とすようにする。
 - ・虫や虫の死骸を処分する時は、素手や皮膚に触れないようにする。
- 注意： ベニバナ油、ムラサキ油などの油剤（油脂に有効な薬物成分を浸透させた薬剤）
を使用してはいけません。

対処方法：石鹸と流水で皮膚を繰り返し洗い流す。

水疱ができるなど、症状がひどい場合は皮膚科を受診する。

花粉症について

7・8月にモンゴルで雨が降り、9月頃モンゴル花粉が、強い北風によって北京に舞ってくることから、9月は北京にとって花粉症の時期となるそうです。

発熱がなく、風邪症状がみられる場合は、花粉症の可能性も考えられますので、薬の内服や症状が悪化した場合の対処方法など、お子様とご家庭でもお話しください。